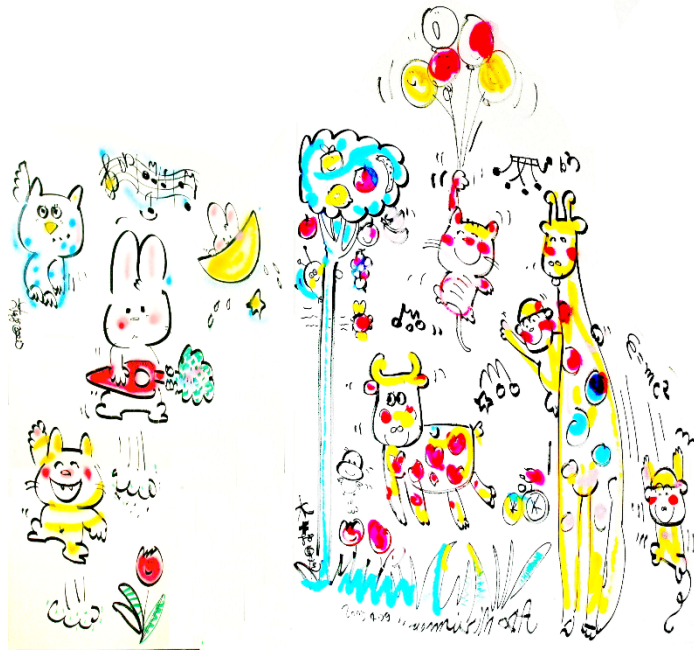


久良岐便り

第68号



久良岐便りといえば、水森亜土さんのイラストが表紙を飾っています。
今回はそのイラストの大集合！ 6年前に解体された旧久良岐会館の
当時の玄関に亜土さん自身が描いた「壁画」です。2005年のことでした。
時を経ても、亜土さんの作品は見る人を元気にしてくれますね。

社会福祉法人
久良岐母子福祉会

〒232-0063

横浜市南区中里 3-23-1

☎ 045-731-5994

fax 045-721-3166

<http://www.kuraki-boshi.or.jp/>

久良岐の 職員研修体系

各施設の事業計画視聴（6月）、人権研修（9月）				
1年目	2～3年目	4～5年目	6～9年目	10年目以上
新任職員研修 (4月、6月、12月)	理念の理解と実践 の結びつき (8月～)	身近な業務上の課題設定と問題解決 (10月開催予定)	問題解決のアプローチ技術 (11月開催予定)	読書会 (課題図書別で開催、 1回以上参加)

久良岐には4つの施設があり、それぞれの施設から選抜されたメンバーで「人材育成委員会」を構成しています。今年度の法人研修は階層別に上記のような計画です。

これまでは、4月初回の研修は社会人としての心得や基礎力重視の研修でした。しかしコロナの影響を大きく受けた新任職員を考えた時に、研修を企画した人材育成委員と新任職員、あるいは新任職員同士がコミュニケーションをとりながらそれぞれの主体性が引出され、アウトプットにも挑戦する内容が変わっています。皆が集まってワークに取組み、心を開いてやりとりをする研修は参加者のそのあとの行動につながると感じました。

今年度のトピックスは、あらたな職員へのアプローチと言える「読書会」です。

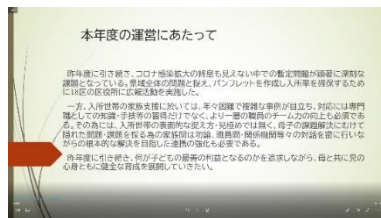
長井理事長からは、書籍や参加者の考え方から学ぶ場ではあるが、自分達のフィールド「福祉」を離れた分野の書籍を取上げてほしいと方向性が示されています。

さあて、楽しい研修になりそうです。

6月 各施設の事業計画解説動画を見る 聞く そして理解する

令和4年度 久良岐乳児院 久良岐保育園 母子生活支援施設くらき くらき永田保育園の事業計画をそれぞれの施設の職員が解説した動画を、いつでも どこでも 何度でも自分のスマートフォンで視聴できるようにしています。他の施設の解説動画を見ることで、法人職員としての視点を持つことにも期待をしています。

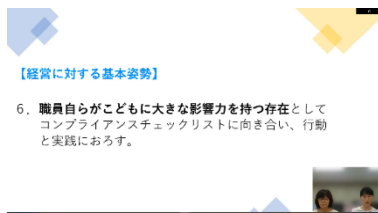
母子生活支援施設くらき



久良岐乳児院



久良岐保育園



くらき永田保育園



新任職員研修 2回目

令和4年6月18日

久良岐母子福祉会館 研修室にて

『自己覚知 自己開示 福祉施設の報連相』

主催 久良岐母子福祉会 人材育成委員会

2ヶ月ぶりに4施設の新人職員11人が揃いました。
今回の研修テーマは、午前は「自己覚知、自己開示」、午後は「福祉施設の報・連・相」。
1グループ4人、4施設が入り混じったグループ編成で、研修を行いました。

午前は“オリジナル名刺”“人生の折れ線グラフ”を個人で作成して、グループ内で発表・シェアを繰り返しました。他者に開示することで、自分は気づいていない部分を知り、「そんな見え方があるんだ」「自分の欠点を肯定してもらえて、嬉しく感じた」と新たな発見が出来る機会になっていた様子でした。研修も最初は緊張した表情でしたが、グループ内で感じたことや意見を積極的に交換する中で、緊張が徐々に解けていく様子がありました。会話が盛り上がる様子がありました。また仕事の振り返りや12月の目標を考える時間には、真剣な表情になる姿は印象的でした。



午後は「報・連・相の説明」「傾聴トレーニング」を行いました。傾聴トレーニングでは、三人一組で話役・聴き役・観察者になり交代します。敢えて反応をしない聴き手役もしてもらいました。話し手は聴き手の表情、うなづき、目線、共感、一つで話しやすさが変わることを、逆に話しやすい聴き手とはどうすると良いのかを体験することで学べたと思います。また例えば「オレンジ色」と伝えても、人によってイメージする色は違い、何種類もあります。一見伝わっている様で、食い違うことがあることも講義を通して感じられたと思います。伝えるポイント、コミュニケーションパターン等の話しを通して、自分自身と相手を理解することが報連相を円滑にするコミュニケーションに繋がると感じて、日々の業務に活かしてもらえると嬉しいです。

また、最後には12月までの目標を考えてもらいました。12月の新任研修の時にこのメンバーと一緒に自分自身を振り返れること、同期と不安や課題を共感したりすることで、仕事への活力に繋げていきたいと思っています。

人材育成委員会 伊神



自転車寄付

令和4年3月 一般財団法人 篠原欣子記念財団より久良岐乳児院に、電動自転車3台の寄付をいただきました。幼稚園に通う幼児の送迎や、担当養育者とのお出かけに電動自転車は大活躍です。



緑の井戸端便り

久良岐母子福祉会館の道向こうに40坪ほどの畑があります。そこが緑の井戸端です。仕事の合間に作る作物は少量多品種。地域活動に使ってもらったり、畑の周囲には花木を植えて久良岐地蔵さんに供えたり、会館の玄関ホールに大きく活かしています。夏の畑は灼熱です！ 緑の中に見つける小さなオレンジや赤は、ヤブカンゾウやヤマモモの実。実のついたヤマモモは、そのままホールに飾っても皆さんの反応は薄いのですが「ヤマモモのシロップ煮」を作ってをドーンと置くと、これは何？！とご質問が多くなります。夕方、畑には水をまきます。するとどこからかトンボもやってきて、人間もトンボも今日1日の暑さに耐えた者同士、ひと時の涼に息をついています。



いきいき

地域のこどもたちが待ち望んでいた季節 夏！

その声に応えるように、こどもふれあい広場 いきいきも活動が復活しました。

今ではもうコロナを忘れることはできず、様々な制限も受け入れることにおとなもこどもも慣れてしまったようです。

5月の土曜日。久良岐に集まった乳幼児とその保護者・小学生は100人！

広い園庭に砂と水。

ただそれだけの場所に100人が集まる。しかもその年齢の幅は1歳の参加者からやがて80歳のスタッフだということですから、いきいきはもう「遊びの場」を越えて「まちづくり」に向かっていくような気がします。6月のいきいきでは、スタッフさんが手塩にかけた「おむすび」が振舞われました。それは、久良岐で思いっきり砂まみれになり、水でびしょびしょになった子どもたちがお昼になった時に、すぐに食べられるものを！ お家の人がかどものお昼を気にしないで友だちと遊んでおいで！と言えるようにと おとなの願いがこめられていました。

こどものことを大事に思う気持ちが集まって、それが「まち」に広がっていくこと。

これからのいきいきに久良岐が関わるテーマが見えたように思いました。

広報委員長 内田



こどもふれあい広場 いきいきの様子は
動画でご覧いただけます。

QRコードから「あじさいStory」に入って
movieを選択して下さい。

施設からのお便り

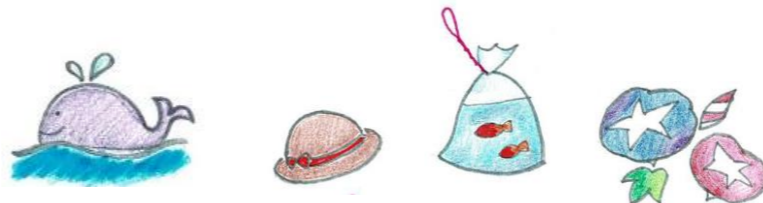
久良岐保育園

久良岐乳児院

母子生活支援施設 くらき

くらき永田保育園

乳児院の“広く長い”地域とは... vol.1



～広い乳児院の支援・地域貢献についてのお話～

久良岐乳児院

今回から何回かにわたって、乳児院の地域貢献についてお伝えしていきます。

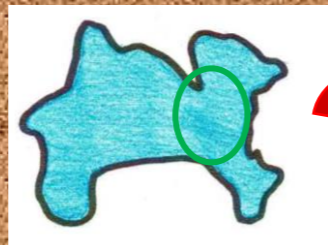
地域の方からみて乳児院は、あまり馴染みがなく関わる機会がほとんどない印象ではないでしょうか？社会福祉法人として求められる地域貢献も、施設の特色に合わせた様々な形で
行っているのです。乳児院の特色をお伝えしながら、今回は“乳児院の広い支援”の部分についてお伝えしていきます。

乳児院って どのくらいあるの？

乳児院は全国に 146 か所
(2022年現在)
神奈川県には 10 か所
そのうち横浜市には 3 ヶ所
あります。
県に1つしかない所もあり、
その数は様々です。



横浜市に3つある乳児院の一つ久良岐乳児院は、横浜市を担当する4つの児相相談所と、神奈川県を担当する10の児童相談所と連携しています。



ケースによっては横浜市以外の地域の子どもが入所してくることもあります。

子どもたちが退所していく先は、里親委託などを通すと全国、国外になることもあるのです！



保育園と乳児院 何が大きく違うの？

	保育園	乳児院
繋がり ・支援	保育園の所在する 地域に密着が強み！	様々な専門機関と 広範囲にわたって支援！
対象児	生後57日以降～就学前	出生～小学校就学前まで
入園・卒園 入所・退所	年度初め/年度末 途中入・退園も対応	24時間365日(夜間も) 事情により様々
施設の形態等	通園型 / 教育・保育	入所型 / 養育

保育園は地域密着、何世代にもわたる家族ぐるみのご縁も。保育園と乳児院では“地域への在りかた”も異なります。

退所した後も、支援は続きます。

子どもたちの退所先が、乳児院にとっての新たな支援先となります。その為、地域は広く、広い地域貢献なのです！

もちろん、中里に根ざした地域貢献も行っています！！
地域の実習生(高校生も含め)、ボランティア、里親研修の受け入れ
園庭開放 災害時の避難場所提供
お散歩時などで地域の子育て世帯からの相談対応 など

乳児院で人気の
食パンを使ったおやつです😊



作り方☆

< ミルクスク >

練乳をぬるトースターで焼くだけ
たのびつけるのがポイントです。

< きねこトースト >

マカロンを砕く
その上にきねこを混ぜたものを
かけてトースターで焼く。

< のりトースト >

のりの佃煮を砕く
その上に玉ねぎスライスとピザソースを
トースターで焼く。

佃煮は味が濃いので砕く

乳児院 子どもたちの1ページ ～夏～





心を結ぶおむすび

地域を結ぶおむすび

子どもたちのおむすび

地域の親子に久良岐に遊びに来てもらい
大きな園庭で泥だらけになって遊んだ後は、
私たちがつくる

美味しく・心があたたかくなるおむすび

を月に一回お届けしていきます。

今は準備段階です。

久良岐保育園

地域活動と言えば私たち!!!

名コンビ復活!!!



広報委員の
T山とY田です

あじさいロードプロジェクト 年表

2021年
6月中旬



挿し木に挑戦!!
地域の方にアジサイを
頂いたところから
このあじさいプロジェ
クトがはじまりまし
た。

2021年
7月20日



発根

挿し木をしてから
一カ月。見事に、
発根しました!

2021年
7月後半



鉢上げ

発根したあじさい
をプランターに
移し替えました。

2021年
12月



休眠期

冬越えが出来るよう
プランターに寒冷紗
をかぶせました。

2022年
4月中旬



鉢替え

地域の方と
プランターから
大きな鉢に植え
替えました。

久良岐の玄関にも
あじさいを・・・



鉢に植え替えをし
た翌週。
「赤いあじさいも
咲くように・・・」
と地域の方が
赤いあじさい
を持って来て、
くださいました。

2022年
6月



花が咲き始めました

雨の季節に
色とりどり
の花を咲かせる
あじさい。
梅雨のぼんやり
とした景観に
彩りを与えて
くれました。
来年度の
あじさいロード
の完成が今から
楽しみです!
綺麗に咲きます
ように!

2022年
10月

続く・・・

地域の方からの寄贈

小さくなって着られなくなった服、
読まなくなった本や使わなくなった玩具 etc.

色々なものをご寄贈頂いております。
ご寄贈頂く方の中には、一品ずつ丁寧に梱包して
送って下さる方や、地域の子ども会の繋がりから、
お子さんが小さい時に読んでいた絵本を下さる方
もいました。どれも皆様の思い出がぎゅっと詰まっ
た品を頂いているということに、感謝の思いでい
っぱいです。

いつもありがとうございます！

社会福祉協議会を
通じてご寄贈頂く
こともあります

地域の方で、
直接持って来て
下さる方もいます

くらきバザー

頂いた寄贈品は、「くらきバザー」
で売り出します。

一品 10 ~ 100 円!



子どもたちは
お小稼いを
握りこめて
お買い物練習
です♪

おもしろい、
つながる、
つなげていく。



利用者さんの知恵

バザーで購入後、小さくなって着られなくなった服
をリメイクして大変身！
最後まで使い切ります。



バザーで買った服
を入学式で着たよ！
ジャーン！



ゲットした
洋服を着たり
玩具で遊んだり♪

寄付金
子どもたちや高齢者
障がいのある方
への支援、災害支援
に使われています

バザーの売り上げは
赤い羽根共同募金
に全額寄付しています

入所している利用者
のニーズに応じて
頂いた物を他施設
で活用して頂くこと
もあります

くらきでは、毎年 10 月に「くらきバザ
ー」を施設内で開催しています。
バザーで売り出す品物は、主に地域の
方々からご寄贈頂いた品で賄われてい
ます。
このようなご縁も、日々の繋がりがあ
るからこそです。
今号では、頂いた品をどのように活用し
ているのか、そのつながりの輪を紹介し
ていきたいと思っております！



今回、挿絵を担当して
くれました♪
バザーの商品ポップも
彼女の力作です！



廃材

アイデア

＝子どもが創る循環型社会

くらき永田保育園

今年度から！

子どもたちが自由に創作できる空間

“ブリコルーム”

できました！！

園で大切にしたい事は、大人が決まったものを作らせるのではなく、子どもが自ら素材に働きかけて創造性を発揮したり、作りたい物にチャレンジして欲しいという願いがあります。子どもたちの自由な発想で自分らしくを大切にしてもらいたくて、今年度ブリコルームという保育室を造りました。廃材やゴミを保育園で循環出来るようにしていきたいと思います！



ブリコルームの由来

フランス語のブリコラージュ (Bricolage) という言葉には「寄せ集めて自分で作る」「ものを自分で修繕する」という意味があります。「器用仕事」とも訳されますがその場で手に入るものを寄せ集め、それらを部品として何が作れるか試行錯誤しながら、最終的に新しい物を作ったり、また、捨ててしまうようなものに新しく価値を見出してもらいたいという想いを込めました。

～横浜帆布 “045”～

横浜帆布靴とは・・・？横浜と倉敷の老舗が織り上げる丈夫で機能的な帆布を用いたオリジナル靴のお店です。使用している生地・布・金具部材の全てが日本製で、自社工場で靴づくりをして販売しています。自衛隊の船舶にも使用されている、耐光・耐塩・防炎処理された防水帆布など優れた素材を用いたバックが好評です！また、注目を集めるのが靴の表面に印字された『045』の数字。いうまでもなく横浜市の市外局番です。なぜ045を・・・？バックを作った際に社長 鈴木幸生^{ゆきお}さんの娘さんからアイデアを出してくれたそうで、“045を付ければブランドとしてアピールするのに目立つから”とのことでトレードマークになっているようです。横浜発祥の商品は多くありますが、横浜帆布靴もそのうちの一つですね。



今回の子どもSDGsの協力企業さん よこはまはん ぶかばん えいいちばんがいほんてん 『横浜帆布靴 英一番街本店』

子どもたちとオリジナルのかばん作り♪

今年度の年長さんのテーマは“魔女”なのですが、魔女から手紙が来て横浜帆布の布を使って年長さんがオリジナルの靴づくりをしました。見本もありましたが、ほとんど子どもたちが自由に作成し、太めの毛糸を上下に通したり、ぐるぐる巻きをしたり、子どもたちなりに作り方を探して、友だちにも教えてあげながら、思い思いの作品に仕上がりました。



廃棄予定の布の端切れを保育材料に活用させてもらいました！

編集後記



今年も久良岐保育園伝統の！竹馬作りがありました。わが子の竹馬はお家の人が作ります。トンカチに針金、ペンチでねじる、細布を巻きつける… こどもの目の前で繰りひろげられる道具の扱いに、こどもは興味津々です。

指の先で様々な事ができる時代にあって、竹馬作りの工程は久良岐の歴史のようにゆったりと流れていきました。

(内田)

第68号

令和4年7月28日発行

編集委員

高山 吉田（久良岐保育園）

中島 平良（久良岐乳児院）

太田（母子生活支援施設くらき）

斎藤（くらき永田保育園）

広報委員長 内田（久良岐保育園）